

別紙 3

令和 7 年度第 1 回村上市環境基本計画等進捗管理委員会での意見

(1) 第 2 次村上市環境基本計画令和 6 年度進捗状況報告書について ⇒ 内容了承

1 市の自然豊かな環境の後世への継承

【鳥獣被害対策の推進 1-1-5-2】

(クマ増加の要因について)

- ・クマが里に下りてきている要因としては、餌が山にないのではなく、個体数の増加により、山のクマのテリトリーからあふれたクマが里に下りてきている現状がある。
- ・この問題は、戦後ドングリの木を伐採して杉の木を植えたことと、過疎化により人間と動物の緩衝地帯がなくなったことから起きているのではないかと。

(有害鳥獣対策について)

- ・有害鳥獣対策として、市に専門職員を配置し、司令塔をつくっていただきたい。
- ・市民 1 人 1 人が対策の知識を身に着けることが必要。
- ・情報源をマスコミだけに頼るのではなく、多面的に現場の人の話が聞けたらいい。
- ・人員確保の対策として、猟友会への待遇が課題だと思う。それなりの待遇をしないと、人が集まらないのではないかと。
- ・今やれることと、中長期でやれることと同時並行で取り組んでいくべき。
- ・(市の取組として) 今後集落支援員制度の活用による専任職員を検討している。林業分野では、広葉樹への植え替えを進めており、長期的にクマの住むエリアが里から離れたところに徐々にできてくることを目指している。併せて、里山整備の支援制度、市民向けに正しい対策の講習会とそれに対応する支援制度の周知を進めていく。

(動物との共生について)

- ・クマの駆除は必要だが、一方で一定の個体数の確保も必要と考える。
- ・動物愛護の観点から人間とクマの共存のことも考えていくべきではないかと。

(2) 第 2 次村上市環境基本計画中間見直しについて ⇒ 内容了承

※合併処理浄化槽普及率、松くい虫被害木処理量について内容確認あり。